



デンマーク北シェラン島フレデリクスボルグ城

町民海外研修 参加者レポート②(晋)

先月号でお知らせしましたとおり、町民海外研修に参加された方々のレポートを紹介いたします。参加者が研修に参加して視察したことをご覧ください。

都市開発を考える

副団長 岩野弘昌

私たち、黒埼町では、北部土地区画整理組合のような大規模な開発に象徴されるように、農業中心の町から、県都新潟市のベッドタウン化が急速に進み、時代の流れ、交通網の発達により都市開発の波が著しい。人口増加率においては、県下において1位か2位の上位ランクに上っている。80年代は、「民活の規制緩和」を題目に掲げ、経済の活性化、住宅供給、道路公園整備の都市計画を押し進めた。結果、地方の乱開発による環境破壊を招き、真の目的である地元経済の活性化にはつながらなかった。

90年代に入り、80年代の反省を踏まえ、まったく別の道を求め、政策の探究が始まった。「都市計画中央審議会」「経済審議会」「産業審議会」などが、政府で提案されてきた。パブル崩壊をみるまでもなく、日本の基本的な認識が、拒んだままの状況では、個々の政策の見直しも正しく行うことができないと思われる。「都市を豊かにする開発」を考察するに際しロンドンのDocklands地区の再開発をこの度視察する機会を与えていただきました。



研修のお礼として「折り紙」等を贈呈(老人施設)

計画の遅れの原因は経済環境の変化が陰を落としていることも無視できないが「交通計画」が再開発の規模と照合すると遅れているように感じられた。「シティ」とDocklandsを結ぶ地下道路等が整っているものの、現地に直接乗り入れる地下鉄も未完成でありDocklandsライトレールウェイが開通していたのみで交通網の未整備状態が目についた。

しかしながら、世界の四大文明発祥地に伴う河川と同様に、視察地区もテムズ川を従い河川の河畔は親水空間が創設され市民が水と親しめるアメニティー空間として利用している。水や緑の空間は、市民が快適な生活を築く上で欠かせない。日本人は昔から自然となじみ、花鳥風月を友としてきた。しかし、最近では水辺空間そのものが減り、それを作る技術も海外に



開発の進むドックランズ地区

依存している。私たちの土地柄にあった水辺復権のスタイルを探る時期が来ているように思う。水辺のみならず、公園やオブジェ、建造物など、古都の伝統を十二分に生かすイギリスの国民性を随所に表現する都市創りを目のあたりにすると、紀元前からの都市開発の歴史の重厚さを感じずにはおられなかった。

都市開発が進むメリットは多大であると思う。オフィス建設に伴う経済的波及効果は投資額の2倍以上に達すると推計されている。中心部では関連する事業所などの立地を呼び、地域の振興、ひいては地域経済全体のリディンクセクターの役割を果たすように推移すると考えられる。地域経済が衰退し、開店休業の店舗が町に溢れるようになっては町における

生活の質を維持することはできない。地方都市が様々な開発に乗り出すのもなんとかして地域振興をしたいという願いが込められているからである。

地方都市においては、外から来た開発業者だけが潤うような開発ではなく、地元の中企業など既存の産業の振興にも役立つような開発が選択される必要がある。住民主導の町創りの試みが各地で活発になっている。東京都が臨海副都心計画の見直しを余儀なくされたのも市民無視ではやれなくなったことを示している。地方分権の進展とともに、都市を住みよくするのにも、住みにくくするのも、そこに住む住民の責任という時代がやってくるように思う。

都市計画に伴う都市開発が行われることが必要なのは当然のことであるが、計画、開発を誰のために行うかを最重要課題として「小粒」でも光るまちづくりを念頭に先人の知恵を基盤とし後世に伝える心意気で開発に関わる関係者は熟慮して取り組む必要があるように感じている。

北欧研修を終えて

副団長 駒形宏子

此の度、町のご好意により10月24日にスタート、31日までの7泊8日で世界の福祉先進国デンマー



大英博物館にて

ク(フェスタブロー老人施設・ギールスコフ障害者教育機関)及び歴史のイギリス(ロンドン、ドックランズ地区都市計画関係施設)の2ヶ国を視察と交流の旅に参加する機会をいただきました。参加する迄の北欧の生活は素朴で質素という私のイメージでしたが、即座に消え、実際は税金に見合った高水準の福祉を受けている豊かな国、又「アンデルセン物語」に代表される文化、文学も盛んな国という印象を強く受けました。

障害者(児)、老人を特別視する事なく、生まれ、住みなれた町で通常の生活を送るといふ、基本理念が貫かれており、又健常者、障害者(児)という区別がなく一人ひとりが人間であるという考え方が生きている。各種年金、保険、福祉、施設等の社会保障制度が完

備されている中で個人の意志が尊重される。更に20才になると自立が認められ、強制され自己決定権が個人に与えられる事が国全体に浸透していると感じた。

このような事を考えると、私達研修で出会った北欧の人達は「税金が高くても当然」と受け止めて、イキイキ生活しているに違いないと思う。

明日には私達も老齢というハンディを持って、生活せざるを得ない状態になるのだから弱い立場にある人を気づかい、同じ価値観を持つという事が大切だと感じた。

「高負担、高福祉」と言われているが、日本の国や黒埼町に即、適用したらどうなるか、正直なところ複雑な気持ちである。訪問したところは、全て「人間的配慮」が行き届き、ゆったりとした対応がなされていると痛感している。

海外研修の初歩的な不安もあめらいとなり、相手に対して素直に表現できなかった事を反省している。

見る事(施設めぐり)、聞く事、感じる事、全てが感激、感動であった事を今後の糧として黒埼町民として活かして行きたい。



スポーツ 大会

◆第23回善久・柳作親善囲碁将棋大会(1月15日)

囲碁の部 優勝・桜井吉司◎阿部利男◎木口正雄

将棋の部 優勝・風間繁◎島倉進◎鹿島耕平

★スポーツ教室など各種団体の募集

★バウンドテニス教室

日時 2月6日、13日、20日、27日(日)

午後7時～9時

会場 総合体育館

対象 小学生以上の町民ならどなたでも参加できます。

服装 運動できる服装で運動靴を持参のうえおいでください。

用具 総合体育館にある用具を使用します。

程度 ソフトテニスのように軽い気持ちで運動ができます。

問い合わせ 総合体育館

★黒崎山の会会員募集

対象 成人以上の一般町民ならどなたでも歓迎します。

内容 2月1日程度例会、春・秋の町民登山の引率指導。

程度 主にハイキング程度の中級程度の軽い登山で健康づくりをします。

服装 登山できる服装でおいでください。

問い合わせ 総合体育館 渡辺

※1月1日号で「第18回黒崎町親善柔道大会」小学生1、2年の部

③小林優樹」と掲載するところ、誤って掲載しました。お詫びして訂正いたします。